

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	121人	国語B	121人
② 算数A	121人	算数B	121人
③ 理科	121人		

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

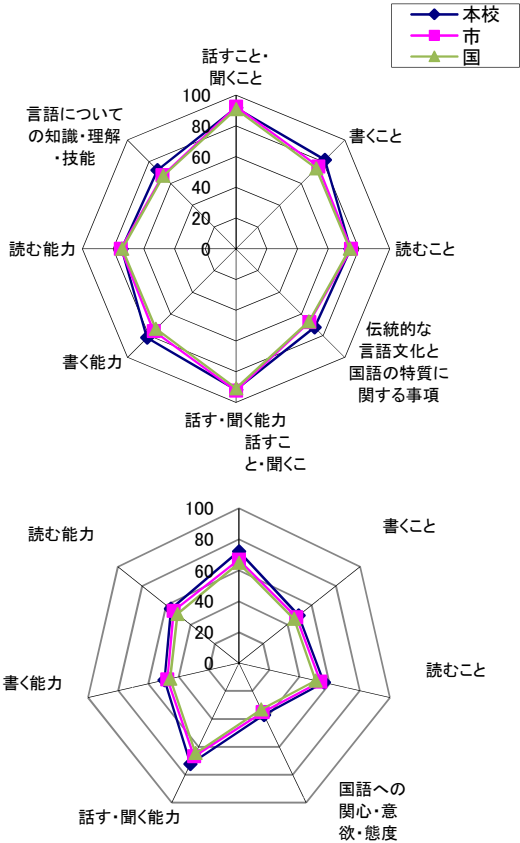
★本年度の国、市と本校の状況

【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	91.7	92.4	90.8
	書くこと	81.8	75.7	73.8
	読むこと	74.4	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.3	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	91.7	92.4	90.8
	書く能力	81.8	75.7	73.8
	読む能力	74.4	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	72.3	67.5	67.0

【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.2	66.8	64.6
	書くこと	49.3	47.4	45.6
	読むこと	56.2	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	37.2	35.2	33.2
	話す・聞く能力	72.2	66.8	64.6
	書く能力	49.3	47.4	45.6
	読む能力	56.2	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

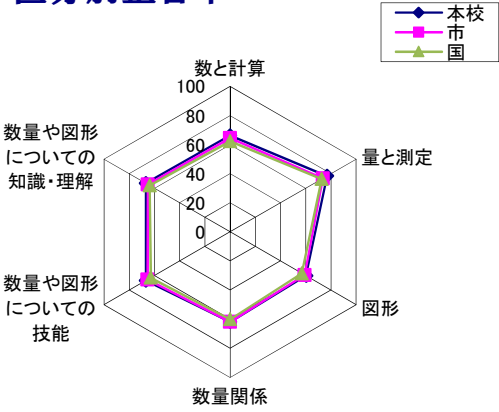
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aで市を0.7%下回り、国を0.9%上回っていて、国語Bで市を5.4%、国を7.6%上回っている。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる設問や、計画的に話し合うために、司会の役割について捉える設問での正答率が高い。 ●国語Bの話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる設問での正答率が低く課題がある。	・今後さらなる力を付けるために、話合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話合いを進めていけるようにする。また、他教科や教育活動とも関連を図り、児童の日常生活に生きて働くように話合いの場を設定していく。 ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話せるようにする。
書くこと	平均正答率は、国語Aで市を6.1%、国を8.0%、国語Bで市を1.9%、国を3.7%上回っている。 ○国語Aの自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成を考える設問で正答率が高い。 ●国語Bの目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく設問において全国の平均正答率を下回っている。	・目的や意図を明確にして書く事柄を選び、書きたいことの中心が伝わるように詳しく書いたり、簡潔に書いたりすることができるよう指導する。また、新聞や非連続型テキストの資料を活用するなどして、目的に応じて必要な情報を捉え、要約する活動を取り入れることで、さらに力を付けていく。 ・国語の学習以外にもお礼の手紙や案内状などを書く機会を設定して日常的に書く能力を高める。
読むこと	平均正答率は、国語Aで市を0.5%下回り、国を0.4%上回っていて、国語Bで市を2.2%、国を5.4%上回っている。 ○目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む設問や、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む設問での正答率が高い。 ●国語Bの目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む設問の無解答率が10%を超え、やや高い。	・文学的な文章では、心に残った叙述を取り上げ、その叙述をどのように解釈したのか、その理由や根拠を明確にしながら話し合い、各自の読みを広げられるように指導していく。 ・言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、自分が想像したことを広げたり深めたりすることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国語Aで市を4.8%、国を5.3%上回っている。 ○文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く設問や、日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、正しく使う設問での正答率が高い。 ●国語Aの文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く設問の正答率が低く、課題がある。	・漢字の読み書きはよくできていたが、この結果が継続できるような復習を定期的に行っていく。また、日常生活でも既習漢字を使用するよう意識を高められるようにしていく。 ・ことわざや四字熟語等、復習する時間を設けて、普段の日記や作文で使えるように指導していく。 ・作文の時間に推敲の時間を十分に確保し、主述関係を明確にできているか確認させる。また、優れた児童の作品を紹介することで、使い方全体に広めるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

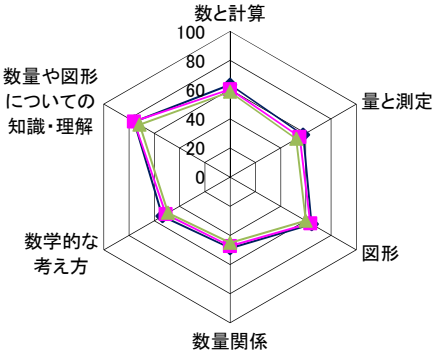
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.3	64.5	62.3
	量と測定	76.9	73.6	72.7
	図形	60.3	59.1	56.9
	数量関係	61.8	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.8	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	66.8	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	63.4	60.2	58.4
	量と測定	57.9	55.0	52.4
	図形	64.5	63.5	59.9
	数量関係	48.8	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	53.6	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	76.0	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

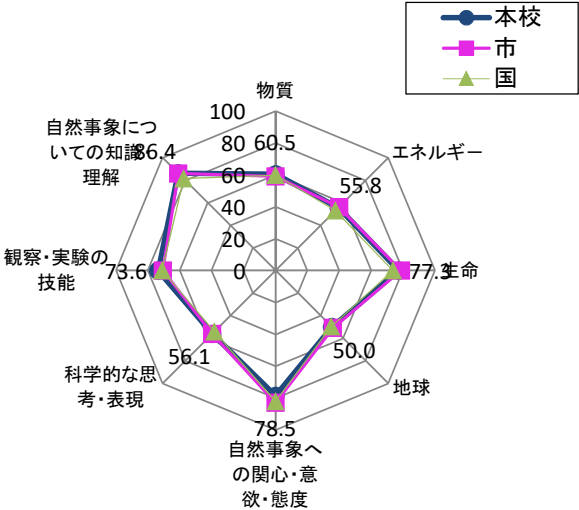
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aで市を1.8%、国を4.0%、算数Bで市を3.2%、国を5.0%上回っている。 ○算数Bでは、示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める設問に対しての正答率が高い。 ●算数Aでは、折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された収量を関連付け、根拠を明確にして記述する設問に対する正答率が低い。	・示された情報を基に説明する学習では、図や数直線等を用いて考えを表現する活動を意図的に行い、必要な条件を満たして根拠を明確にして説明する力を育てるようにする。
量と測定	平均正答率は、算数Aで市を3.3%、国を4.2%、算数Bで市を2.9%、国を5.5%上回っている。 ○算数Aでは、2つの量のうち、一方の量がそろっている時の混み具合を比べる設問に対する正答率が高い。 ●算数Bでは、示された考え方を解釈し、他の数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する設問の正答率が低い。	・「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題は、つながりがあるので「くらべる量」「もとにする量」などの関係を十分におさえさせなければならない。数直線や図などを用いて考え、説明する活動を増やしながら定着を図っていく。
図形	平均正答率は、算数Aで市を1.2%、国を3.4%、算数Bで市を1.0%、国を4.6%上回っている。 ○算数Aでは、示された表現方法をもとに、空間にあるものの位置を表現する設問の正答率が高い。 ●算数Bでは、図形の構成要素や性質をもとに、集まった角の大きさが360° になっていることを記述する設問の正答率が低い。	・「対称な図形」では、作図を多く取り入れることで、対応する点や辺を確実にとらえられるようにしていく。 ・「正多角形」の内角の和は、三角形をもとにして計算できることを習熟させる。
数量関係	平均正答率は、算数Aで市と同率、国を1.7%、算数Bで市を1.5%、国を3.7%上回っている。 ○算数Aでは、除法で表すことができる2つの数量を理解している設問の正答率が高い。 ●算数Bでは、メモの情報とグラフの関連付け、総数や変化に着目していることを着目し、それを記述する設問の正答率が低い。	・ともなって変わる量については、一方が増えともう一方はどうなるのかをよく考えさせ、正しく理解できるよう繰り返し指導していく。 ・「割合と比」では、実生活に結び付けた問題を解くことで割合の意味を理解させ、習熟を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	60.5	59.0	59.8
	エネルギー	55.8	56.4	53.1
	生命	77.3	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	78.5	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	56.1	56.1	54.1
	観察・実験の技能	73.6	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	86.4	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、市を1.5%、国を0.7%上回っている。 ○示された実験器具の適切な扱い方や実験方法を問う問題の正答率が高い。 ●食塩水に含まれる水と食塩の量の関係を問う問題の正答率が低い。	・「もののとけ方」の学習における基礎的な知識や概念を復習するとともに、水溶液の特性をメスシリンダーやはかりなどを使って、視覚的に捉えやすくしていくような学習活動を展開していく。 ・実験結果から考察する際、論理的な文章で表現できるようにするために、理科の授業だけではなく他教科の学習活動時においても、問いの意図を正確に読み取ったり、順序立てた説明をしたりする学習を積み重ねていく。
エネルギー	平均正答率は、市を0.6%下回り、国を2.7%上回っている。 ○実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えを選択する問題の正答率が高い。 ●太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を問う問題の正答率が低い。	・「電気の働き」の学習において、回路のつなぎ方による電流の変化や検流計の使い方などの基礎的な内容をしっかりと理解できるように、家庭学習等で復習できる機会を設ける。 ・様々な教育活動の中で、学んだことを生かして応用していく場面を設定し、既習の内容を日常生活に活用していく力を高めていくようにする。
生命	平均正答率は、市を1.3%下回り、国を3.7%上回っている。 ○安全な観察の仕方や体の部位の名称を答えるような問題の正答率は高く、基礎的な知識が定着していることがうかがえる。 ●関節や筋肉の仕組みについて、模型を使って説明する問題に対する正答率が低い。	・関節・筋肉の働きや仕組みについて、実際に自分の体に直接触れたり体を動かしたりすることや、具体物を使った教材をもとに調べることで、より実感を伴った知識を獲得できるようにする。
地球	平均正答率は、市を0.9%下回り、国を0.5%上回っている。 ○堆積作用について科学的な言葉や概念を問う問題の正答率が高い。 ●流れる水の働きによる土の侵食について、実験結果の資料をもとに、その理由を記述する問題に対する正答率が著しく低い。	・「流れる水の働き」の学習における基礎的な知識や概念を復習するとともに、日々の授業において、資料やグラフから実験結果を正確に読み取ったり、その内容について友達と説明し合ったりするなど、分析力や説明する力を育てていくようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対する肯定的な回答は91.8%で、県の平均より6.4%高い。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しても、96.7%の児童が肯定的回答をしており、家庭や学校で褒められたり、クラスの仲間に認められたりすることで、安心感や自信をもって学習に取り組んでいることがわかる。

○生活習慣については、毎日朝食を食べている児童の割合が92%、毎日決まった時刻に寝たり起きたりしている児童の割合も80%を超え、家庭での指導のもと、規則正しい生活をしていることがわかる。ただ、就寝時刻については県の平均を上回っているものの、やや肯定的回答が低いので、今後も家庭と情報を共有し、改善していく必要がある。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という質問に対して、肯定的回答が79.5%で県の平均を11.3%上回っている。テレビやインターネットのニュース番組を視聴するという児童の割合も80%以上おり、社会科の授業を中心として、問題意識を喚起できるような身近な素材を提示し、授業を展開していることが、結果につながっていると思われる。今後は、さらに地域や社会の出来事を自分のこととして捉えられるように新聞を活用した教育活動にも取り組んでいきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、87.5%の児童が肯定的回答をしており、県の平均を9%も上回っており、主体的に話し合い活動に取り組んでいることがわかる。今後も対話を取り入れた話し合い活動を展開し、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○「理科の勉強は好きですか」、「観察や実験を行うことは好きですか」という質問に対しては90%以上の児童が肯定的回答をしており、非常に意欲が高い。さらに、「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」という質問に対しては、24.6%の児童が肯定的回答をしており、理科に対して高い意欲をもって学習に臨んでいることがわかる。

●「算数の勉強は好きですか」という質問に対して、肯定的回答が66.4%で県の平均を下回っている。また、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」や「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対しても、肯定的回答が70%とやや低い。一方、「算数の勉強は大切だと思いますか」や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」といういずれの質問に対しても、95%以上の児童が肯定的回答をしている。このことから、算数を学ぶ必要性は実感しているものの、苦手意識があることがわかる。「できる」「わかる」授業を展開することで、児童が達成感を感じ、意欲を高められるように指導を継続していく必要がある。

●学習習慣については、「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に対する肯定的な回答は99.2%であるが、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」や「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という質問に対しても、いずれも県の平均を下回っている。特に、「自分で計画を立てて勉強しているか」に関しては県の平均よりも5%以上低い。このことから、与えられた課題に対しては一生懸命取り組んでいるが、進んで予習や復習、テストの見直しなどには取りかかれていないことがわかる。今後は、自主学習のやり方や進め方についてアドバイスをしたり、参考になる例を紹介したりして、家庭での学習を自主的に進めることができるようにしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・話し合うスキルの向上	・児童が自分の考えを隠せず表現し、話し合うことができるように、月に2、3回、朝の活動の時間に学級の実態に合わせた形態で話し合い活動を行う。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という質問に対して、87.5%の児童が肯定的回答をしており、市の平均を9%も上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・与えられた課題に取り組むことはできるが、自ら課題を見つけたり、新たな課題に取り組んだりすることに苦手意識がある。「できた」「分かった」と児童が実感できたり、学習で得られた知識が生かされることを感じたりすることができれば、能動的に学習しようとする態度につながっていくのではないかと考える。	・学習の振り返りの徹底。 ・生活に関連した課題設定。	・授業で学習したことによって、知識が増えたこと、理解が深まったこと、考えが広がったことを、児童が実感できる明確な視点を与えた上で学習を振り返らせる。 ・実生活に関連した課題を設定し、学習する内容が生活の中で生かされていることや自分たちが実践・応用できることがあると実感できるようにする。児童が学習したことに有用感を持ったり、より深く理解したいと意欲を持ったりすることができる授業づくりをする。